

第2期 第5回 向日市子ども・子育て会議 議事要点録（詳細版）

○日 時 平成30年3月23日（金）13時30分から15時00分

○場 所 福社会館 会議室

○出席者 （出席委員15人）

安藤和彦委員（会長）、石田与緒子委員、大西智美委員、風谷千賀子委員、川村宗己委員、櫻井成委員、四方貴之委員、高山紀公子委員、田中久美子委員、田部千夏委員、花安肇委員、平田麻代委員、福井千津委員、三沢あき子委員、宮地健一委員
（50音順）

（事務局11人）

【健康福祉部】

水上健康福祉部長、
長谷川子育て支援課長、長谷川障がい者支援課長、井口健康推進課長、
紺野副課長兼子育て支援係長、近藤子育て支援課保育係長、前田保健師

【教育部】

小賀野教育部長、野田教育部副部長兼生涯学習課長、野田学校教育課担当課長、
徳田生涯学習課係長

○欠席者 （委員5人）

北口勝也委員、小塚真緒委員、田中利和委員、築山剛委員、津田陽委員

○内容

- (1) 子育て支援を取り巻く近年の動向について
※資料：「子ども・子育て支援新制度」
- (2) 子育てコンシェルジュにおける近年の動向について
※資料：「向日市子育てコンシェルジュ事業について」
- (3) 平成29年度 向日市子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について ※資料：1
- (4) 平成30年度 向日市子ども・子育て支援事業計画における取り組み状況について ※資料：2
- (5) 保育所の入所状況について ※資料：3

議事1 子育て支援を取り巻く近年の動向について

・安藤会長 | （資料：「子ども・子育て支援新制度」に基づき説明）

議事 2 子育てコンシェルジュにおける近年の動向について

・事務局 (資料：「向日市子育てコンシェルジュ事業について」に基づき説明)

議事 3 平成 29 年度 子ども・子育て支援事業計画における主な取り組み状況について

・事務局 (資料：1～3に基づき説明)

・委員 向日市の状況として、未就学児の療育施設が足りていないという現状があり、子どもの発達を支える基盤が弱い。

向日が丘特別支援学校の建替が行われる。この機会に療育施設として、子どもの環境を整えていくことを乙訓全体で取り組んで欲しい。

教育状況を変えていくと小学校も変わる。発達障がいが増えていく中で、早めに整えることが必要だと考える。

・事務局 療育施設の児童発達事業所が整っていない。乙訓 2 市 1 町としてポニーの学校、民間事業者としてはコラボネットがある。

向日が丘特別支援学校の建替について、障害者施策としては、2 市 1 町で同じような水準で足並みを揃えて行っているが、解決できない部分もあるので、今後、行政間で検討していきたい。

・委員 コラボネットは就学後も通所出来るので、就学前から利用してもらうよう働きかけている。

民間が増えていくことで民間のやることと、公的施設であるポニーの学校がやることの棲み分けや、子どもの発達を促すため、子どもの特性に合わせた機能分けが大切になってくる。

施設が増えていくだけではなく就学後も支援していけるよう、行政が指導し、子どもが置き去りにならないように考えて欲しい。

・事務局 ポニーの学校は大きな遊具があり、コラボネットは音楽療法を活用しており棲み分けはできている。子どもの特性を把握し、合ったところを案内していけるように行政間で話し合い、今後もその方向で進んでいく。

また、ここ 2、3 年で法人が 7～8 か所増えており、定員も 2～3 倍になっている。放課後デイサービスも増えている。

今後、乙訓 2 市 1 町で連絡がスムーズに行くように連絡会議が出来るよう努めていきたい。

・委員 高齢者が教育に携わることにに関して誰でも良いということではない。

今まで、子どもの教育に関わってきた経験があり、子どもと接することに慣れている人もいるが、子どもへの関わり方が不審者と間違えられるような人もいる。

また、シルバー人材センターの方が朝夕、通学路に立っておられるが、横断歩道でも誘導していないなど適切な動きが取れていないことがある。

・事務局 学校生徒の見守りでは、パーカー着用が基本だが、地域の方で目印の無い方

もおられるので、今後の対策として帽子を被るなど目印になるものを着用してもらおうようにする。

- ・委員 就学前の気になる子どもを援助し、発達を促すという視点で人材育成と教育補助について検討してほしい。
保護者との信頼関係を築くのは時間がかかるのでサポート体制を考える必要がある。
- ・委員 平成 29 年度に子どもの支援事業を行ったが、参加者はどれくらいであったか。平成 30 年度の釈迦 fe はどのように行うのか。
- ・事務局 子どもの支援事業については、毎週、数名程度での子どもたちで定着している。
平成 30 年度についても、対象者を拡大していくということではなく、同じように行う。場所については、市役所又は来迎寺の釈迦 fe を借りて委託するのか、実施方法については調整中である。
- ・委員 子育て支援ハンドブック及び祖父母手帳とはどういったものか。
- ・事務局 子育て支援ハンドブックについては、保育所保育指針と幼稚園学習要領という、保育所保育や幼稚園教育に関わっている人のための指針があり、それをベースに作成し、就学前までに育て欲しい姿といった内容を保護者へ分かりやすく伝えられるものにしたいと考えている。
内容については、これから考える必要があるが、子育て拠点の中でも多々、相談を受けており、どのようなことで悩んでいるかリサーチしたいと考えている。
祖父母手帳については、女性が就労しながら子育てしている家庭では祖父母の援助を受けることが多いが、時代が変わると子育ての常識も変化していくので、世代を超えた方たちにも分かりやすいものにし、世代を超えた子育て支援につなげていけるものにしたいと考えている。
配布の対象については、就学前の子どもを持つ保護者を考えている。また、ホームページに載せ、広く伝えていきたいと考えている。
- ・委員 保育所保育指針と幼稚園教育要領は似てきている。福祉や教育という側面をどうとらえるのか。
子どもの望ましい姿として、自主的に自分でものを考えるようになって欲しい。そういう意味からもハンドブックの内容は気をつけて欲しい。向日市の子どもにどういう子どもに育て欲しいか市民として考えていかなければならない。
- ・事務局 子どもの最善の利益をベースに考えていきたい。
- ・委員 子どもの発達についてのボーダーラインが難しい。子どもにどう関わって行ったら良いか道しるべがない。小学校でトラブルになったが小学校は、保護者同士で話をしてくださいという姿勢で力になってくれない。

・事務局

地域で話ができる場所や社会支援を受けることができる場所が知られていないことが今後の課題である。

以 上